

(6) 第 63 回道小オホーツク・北見大会及び

第 72 回全連小京都大会参加割当等について

……………紺野 研修部副部長

道小教育研究オホーツク・北見大会及び全連小京都大会の参加割当について説明する。

まず、第 63 回道小オホーツク・北見大会への参加期待数について。令和 2 年度の会員数の調査によると、各地区の会員数の合計は 991 名と、今年度よりも 21 名減少になる。各地区の参加期待数は、それぞれの会員数を基に、開催地区のオホーツク地区は、100%、開催地区の第 5 ブロックは 70%、その他の地区は 50%の割合として、事務局幹事の有無も勘案して算出している。参加期待数の合計は、575 名となる。また各分科会の人数は、 $575 \div 13$ で、1 分科会、44 名～45 名となる。

各地区の分科会への振り分け人数については、地区で研究発表のある分科会には、地区の参加期待数に応じて、2～3 名多く割り当てている。どの分科会にも、20 地区すべての地区から参加していることが望ましいが、すべての地区が 13 名以上の参加期待数ではないこと、また、研究発表の地区の人数を厚くして各分科会の割り振りをしていることから、どの分科会にも参加者を割り振れなかった地区がある。

「参加期待数」について、大会実行委員会では、この期待数に基づいて予算や会場確保等の準備をしているため、各地区では期待数の確保にご協力をお願いしたい。

次に、来年度開催される第 72 回全連小研究協議会京都大会について報告する。日時は令和 2 年 10 月 29 日・30 日、全体会場は京都市勧業館「みやこめっせ」、分科会場は全体会場の勧業館「みやこめっせ」及び「ロームシアター京都」において開催される。分科会の構成は今年度と同じ 13 分科会となって

いる。

北海道からの発表は、上川地区が、研究領域「I 学校経営」の第2分科会「組織・運営」担当、函館地区が、研究領域「V 教育課題」の第13分科会「社会との連携・協働」を担当することとなっている。

全連小京都大会の参加期待数について。北海道には、10%強に当たる101名の参加期待数が示されている。各地区10%の割合で、今年度の会員数を基に割り当てた。各地区の会員数の減少幅も考慮し、四捨五入して参加期待数を求めている。札幌は会員数・役員が多いため、21名としている。各地区の分科会への振り分けについては、第2分科会「組織・運営」で研究発表される上川地区、第13分科会「危機対応」で研究発表される函館地区に、それぞれの分科会に2名割り当てている。各地区、ご確認いただき、ご準備願いたい。

京都大会参加申込の流れについての詳細は次回の理事研修会において伝える。簡単に申し上げると、次のようになる。

- ①4月上旬に、各地区に大会参加申込用紙等を送付。
- ②各地区で「参加割当数」をもとに参加者を決定。参加申込書の取りまとめ。
- ③取りまとめた「参加申込書」は、次年度、5月に開催予定の「総会」に出席される折、受付の「事務局」へ提出。
- ④事務局で参加申込の過不足を調整。6月上旬に大会実行委員会への申込を完了。

(7) 令和2年度以降の研究関連分担について

……………紺野 研修部副部長

第3回理事研修会において提案した、来年度からの研究副主題、令和3年度からの分科会構成、開催する分科会については、特に意見等はなかったため、決定とする。

令和3年から6年まで道小研究大会で設定する分科会数が少なくなったことから、改めて研究関連分担を提案させていただく。基本的な考えは次のとおり。

- 全国大会で発表した翌年度は、2024年(R6年)まで原則として道小大会の発表はしないこととする。
- 全道大会開催の前年及び翌年度は、原則として道小大会での発表はしないこととする。
- 2年連続で全国または全道大会の発表がない地区を作らないこととする。
- 全連小の発表分科会によっては、研究発表の分担が変更になる。これをもとに、新たに分担を割り振りさせていただいた。昨年度の第5回理事研修会で提案したことから発表する分科会が変更になっている地区、発表がなくなった地区などもあるため、ご確認いただきたい。